婦人防火クラブの在り方について

佐久間　順子

【質問】婦人防火クラブの現在の数について伺う。

【答弁】【危機管理課長】令和6年4月1日現在、86クラブ5686人が加入しており、5年前と比較すると、7クラブ605人が減少している。

【質問】婦人防火クラブの活動について伺う。

【答弁】【危機管理課長】クラブによっては、定期的な活動を実施しているとは言えないクラブもあるが、感染症の5類移行により、今後は活動を再開するものと思われる。

【質問】婦人防火クラブの廃止の声はないのか伺う。

【答弁】【危機管理課長】少子高齢化等により、新規会員の入会が少なく、活動がままならないことから廃止したいとの声もあると伺っている。

過去5年間で7クラブが減少したものの、休会という形をとっている。

【質問】年々参加者が少なくなり、毎年同じ方が役員を継続せざるを得ないとの声がある。人的資源や資金、情報共有の効率化、活動の透明性を図るため、自主防災組織や消防団と統合してみてはいかがか伺う。

【答弁】【市長】災害が起こると消防署や消防団などが出動して、消火や救助救急等をするが、大災害や特殊災害となった場合、被災地の消防機関では到底人手が足りない。そのため、救急消防援助隊という全国的な応援体制を作っているが、被災地へ到着するまでにはどうしても時間がかかるのが現状である。

そのためには、発災直後は地元の消防団、地元の人々が行動する必要があることから、地域をよく知る婦人防火クラブの存在が、今後も必要と思われる。

しかしながら、地区によっては高齢化等により、活動に支障を来たしているクラブもあると伺っていることから、今後、他の自治体の事例等を研究しながら、クラブ、自主防災組織、消防団との統廃合について検討していく。

【その他の質問】

◎高齢者や障害者の投票率向上について

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。

公立刈田綜合病院の周産期医療提供体制について

村上　由紀

【質問】周産期医療体制の現状を伺う。

【答弁】【保健福祉部長】宮城県外にも募集をかけているが、産婦人科医の応募が極めて少ない状況である。

【質問】周産期医療体制構築には、関係診療科の体制も整わなければならないと考える。麻酔科の医療体制と見通しを伺う。

【答弁】【保健福祉部長】令和7年4月から常勤医1名を採用予定である。

【質問】小児科の医療体制と見通しを伺う。

【答弁】【保健福祉部長】昨年、小児科常勤医を採用し、日曜外来、国の要綱に基づく5歳児健診を実施している。助産師免許を持つ看護師が3名在籍しているが、産婦人科で入院の受け入れ体制はまだ構築されていない。

【質問】妊婦健診をしていない理由を伺う。

【答弁】【保健福祉部長】常勤の産婦人科医の確保と他病院との連携体制構築に至っていないため、妊婦健診ができない状況である。

【質問】周産期医療体制構築の進捗状況とスケジュールを伺う。

【答弁】【市長】来年度には麻酔科医を採用予定である。まずは白石市で安心して赤ちゃんが産める環境に向けて尽力していく。

◎本市の妊産婦助成制度（経済的支援）について

【質問】妊産婦健診の交通費助成について、本市の妊産婦は市外や県外の医療機関への通院を余儀なくされている。ガソリン代高騰の情勢の中、本市でも独自に取り組むべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】妊婦を取り巻く現状、他市町村の動向等を注視していく。

◎本市妊産婦の方への伴走型相談支援の取り組みについて

【質問】周産期医療の体制が構築されるまで、少子化が進んでしまうことが懸念される。そのペースを緩やかにするためにも、限られた財源をどこに集中させるかが持続可能な白石市を作り上げるポイントとなると考える。妊産婦への経済的支援施策を講じる必要性について、見解を伺う。

【答弁】【市長】妊産婦への経済的な支援施策は重要な施策と認識している。国、県および近隣市町からも情報収集し、経済的支援にとどまらない支援体制の強化を図っていく。